HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	軌道に乗った留学生センター紀要の定期刊行
Author(s)	長谷川, 淳
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 4
Issue Date	2000-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45584
Type	other
File Information	BISC004_001.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

軌道に乗った留学生センター紀要の定期刊行

留学生センター長
長谷川　淳

留学生センター紀要の第4号を発刊し、多くの皆様にお届けできることになり、留学生センターに所属する教官はもとより、関係者ともども大変うれしく思っている。

創刊号、第2号および第3号を、それぞれ1997年10月、1998年12月および1999年12月に発刊してきた留学生センター紀要は、創刊当初からその定期刊行化が関係者一同の大きな望みとなっていた。本紀要は、言うまでもなく、留学生センターを主たる活動の礎としている教官や研究者の研究活動成果を広く世に発信するとともに、多方面からの評価をいただく場として期待されている。本紀要が定期的に発刊できるために最も基本的かつ必須の要件は、執筆者となる教官や研究者が、積極的に独創性の高い研究を推進しており、その研究成果を継続的に積み上げることができており、さらに情報発信に積極的に取り組む姿勢を持っていることであろう。幸いにも、第4号の紀要を第3号発刊の1年後に発刊できることになり、胸を張って「この基本的必須要件は余裕を持ってクリアしています」と言える状況で、紀要の定期刊行は軌道に乗ったと考えている。

大学は大きな過渡期を迎えているが、高等教育・研究機関としての大学の使命が、(1)有能な多くの人材を養成し世に送り出すことと、(2)独創的研究を推進し、成果を社会に還元すること、にあり続けることには疑いの余地はない。留学生センターの教官陣は、留学生の教育と指導に邁進して大きな教育成果をあげてきているだけではなく、研究面でも本紀要に発表されている研究成果に見られるように、活発な研究活動を推進している。もちろん、これに満足することなく、さらに自己研鑽を重ねて、より高い評価が得られるよう、努力を惜しまない覚悟が必要であろう。

第3号の巻頭言でも記したが、紀要に代表される教育研究組織の発刊する研究活動報告集は、その組織の活性の度合いを測る一つの良い尺度であり、個々の研究者の真摯な姿勢と自己研鑽の如何を写す鏡となっている。また当然のことながら、多くの皆様の厳しい評価にさらされることとなると自覚している。本紀要で発表させていただいた研究成果およびこれまでの研究活動等について、是非、多くの皆様からの率直な評価とご批判をいただければ幸いである。